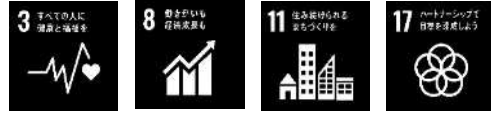


第2章 つなぐ、ささえあう ～安心して生活できるしくみづくり～

第1節 必要なサービス・支援につながりやすくしましょう

1 基本施策



コミュニティソーシャルワークの充実

2 現状と課題

- 地域の現状や課題の分析が不十分
- アウトリーチ（相談者の自宅など日常生活の場への訪問支援）が不十分
- 地域にある社協の事業所が活かされていない

3 5年後のあるべき姿（目標）

あらゆる生活上の相談に応じる
コミュニティソーシャルワーカーの育成

4 5か年の取組（目標へのステップ）

実施項目	令和4～5年度 （ステップ1）	令和6～8年度 （ステップ2）	令和8年度末の あるべき姿
コミュニティソーシャルワーカーの確保・育成	介護・障害各サービス事業所にコミュニティソーシャルワーク機能を置く	あらゆる生活課題に対する視点を育み、困りごとを把握する職員の育成	あらゆる生活上の相談に応じるコミュニティソーシャルワーカーの育成

第2節 住民同士が支え合えるまちにしましょう

1 基本施策



災害時のボランティア活動支援

2 現状と課題

- 既存の活動団体等との情報共有がさらに求められる
- 災害時ボランティア受入対応マニュアルの見直しが必要

3 5年後のあるべき姿（目標）

新たな支援ネットワークの構築

4 5か年の取組（目標へのステップ）

実施項目	令和4～5年度 （ステップ1）	令和6～8年度 （ステップ2）	令和8年度末の あるべき姿
既存の活動団体 との連携	連携内容の模索 団体との協定締結 マニュアル精度向上	さらなる連携先の 拡大 実践的なマニュアル の整備	新たな支援ネット ワークの構築
災害ボランティア の登録	ボランティア登録 のしくみづくり	ボランティア登録 者の育成、活動支援	

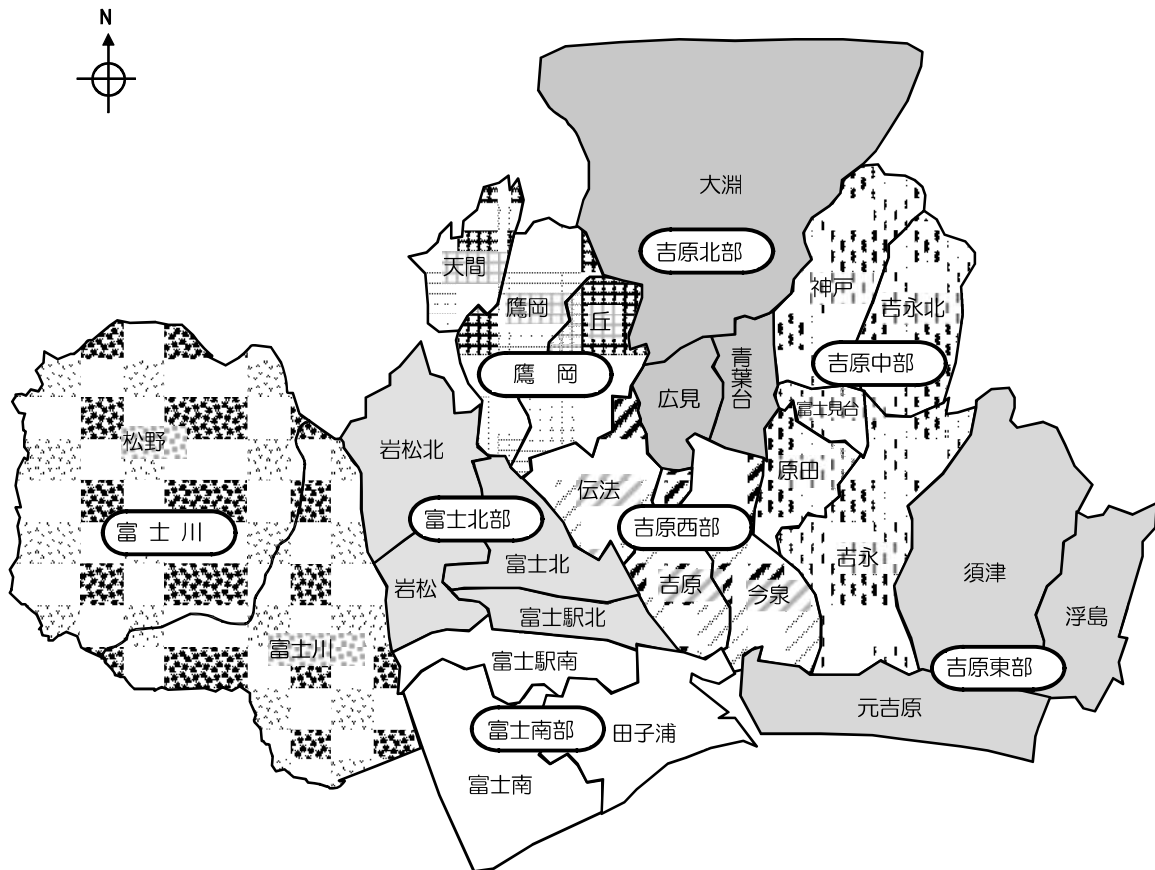
第3節 地域に合わせた取組を進めましょう

地域福祉活動計画の策定に当たり、各地域において、地区福祉推進会を中心に、町内会連合会、まちづくり協議会、民生委員児童委員協議会、地域包括支援センターなどの関係団体の皆様による「活動計画策定会議」等を通して、様々なご意見やご提案をいただきました。

これらのご意見等を基に、各地区の今後5年間の福祉活動の目標と、新たな活動のヒント等を表した計画を策定いたしました。

社会福祉協議会はこれからも、小さな子どもからお年寄りまで、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、様々な活動支援を行い、「地域共生社会の実現」に積極的に取り組んでいきます。

■地域福祉活動を展開する26地区



須津地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 10,937 人、世帯数 4,371 世帯、高齢化率 30.8%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 居場所（集まれる場所・機会）の減少
- ひとり暮らし高齢者の増加
- 高齢者の買い物支援や子どもの見守り

人や地域とのつながり：

- 近所づきあいの希薄化
- 地域行事への参加が消極的
- 地域に対して無関心（個人の生活重視）

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、須津地区の目標

つながりを大切にする、住み続けたいまち、須津

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

つながりを感じられる居場所づくりを進めましょう

- ふれあい・いきいきサロンの充実（目標は全町内での開所）
- 世代間交流できる居場所づくり（子ども、障害者、ひとり暮らし高齢者など）
- 居場所を地域住民に知ってもらう工夫をする（各種団体の広報紙の活用）

地域のみみなで見守る仕組みを作りましょう

- 隣近所とのさりげないかわり（あいさつ、声かけ）
- ひとり暮らし高齢者世帯に対しての意識した見守り
（一緒に料理や食事を楽しむ機会や事業の開催）
- 小中学生が安全に登下校するための日常的な見守り
- 学校、子育て支援団体などと連携する機会の創出



子育て世代が参画しやすいまちづくりをしましょう

- 子育て世代の意見を聞く機会を増やし、まちづくり活動へ反映
- 子育て支援活性化のため、支援事業にかかわる住民を増やす
（ほっとひといき広場、まちの小さな音楽会など）
- 既存の地区行事内容の見直し（小中高生も参加したくなる内容など）

浮島地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 1,550 人、世帯数 586 世帯、高齢化率 35.7%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 買い物などが不便、病院等の医療機関が少ない
- 交通機関が少なく、高齢者等の車のない人にとって移動が困難
- 少子高齢化が進んでいる、耕作放棄地及び荒れ地等の増加、水害問題

地域のつながり：

- 役員のなり手が足りない、働き盛り世代は、地域活動にかかわる時間が足りない、地域活動や行事への住民の参加意識の希薄化
- 昔ながらの近所づきあいの残る地域性をどのように活かせるかが課題

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための浮島地区の目標

ご近所づきあいの輪を広げ、地域全体が知り合いになろう。
地域みんながイキイキ暮らす浮島！

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

さりげない声かけ・あいさつをしよう！

- 子どもや高齢者をはじめとした地域住民同士の声かけやあいさつ
- 子どもの登下校の見守り活動（高齢者も参加）

日頃からの地域のつながりを深めましょう！

- 各種団体との連携強化
- 高齢者、子ども、障害者など様々な人が集い支え合う地域のふれあいの場を作ろう
- 地域のお祭りや行事などを通じて顔の見えるつながりを大切にしよう
- ふれあい・いきいきサロンなど集うことのできる居場所の充実、周知



元吉原地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 7,620 人、世帯数 3,346 世帯、高齢化率 34.9%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 買い物や通院が困難
- 高齢者や障害者等の外出が困難
- 若い世代の地域活動への参画

地域での横のネットワークづくり：

- 顔を合わせる機会がない
- 人とのつながり
- 災害時の対応が不安

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、元吉原地区の目標

あらゆる世代が、日常的にささえあい、地域全体がつながる元吉原

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

支え合いの関係づくりを育てよう

- ご近所同士（組や班）のつながりから、町内へ、さらには地域全体へ

援護を必要とする方を把握し、支え合うためのしくみづくりを進めよう

- 小地域単位での要援護世帯の把握のための福祉マップづくり
- 各町内で生活支援サポーター（ごみ出しや草取り等の支援）を養成

安心して子育てができる環境をつくろう

- 子育て世代も安心して暮らせる地域を目指して
- 地区内の子ども食堂や子育て支援センターへの参加協力
- 小中学校の子どもたちやジュニアリーダー等、次代の担い手の育成



災害時への対応について確認しよう

- 災害・緊急支援情報キット等の活用による小地域での要援護世帯の把握
- 新たな防災訓練や避難計画等を地域ぐるみで協議

地域での横の関係づくりを深めよう

- まちづくり協議会において、各構成団体の情報を共有し合う
- 互いの「強み」を認識し、「弱み」を補い合う関係づくり
- 組織や行事を再編成し、今できる活動から徐々に進めていく

富士見台地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 5,935 人、世帯数 2,628 世帯、高齢化率 35.0%

生活課題

日常生活の困りごと：

○生活上のちょっとした困りごと（買い物、ごみ捨てなど）

○高齢者等が気軽に集まる場所が少ない

○高齢者や子どもの見守り

地域のつながり：

○隣近所や各世代とのつながりが希薄

○学校との連携・協働

○若い世代の地域活動の参加が少ない

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、富士見台の目標

みんなで支え合い つながりをたやさない安心なまち 富士見台

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

日常生活のちょっとした困りごとをお手伝いできる支え合いの仕組みを作りましょう

○ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯など生活上の困りごとを相談できる窓口

「富士見台くらし支えあいセンター」の開設

○生活支援サポーターを養成（若い世代、高齢者など）

○地域の関係団体をはじめ、富士見台地区の企業や商店などとの連携・協働

子どもから高齢者まで地域のつながりをたやさない見守り活動や居場所づくりを進めましょう

○子どもや高齢者をはじめ地域住民同士の声かけ（あいさつ）

○子どもや高齢者、障害者など住民同士のふれあい交流の場づく

○「白寿会」やふれあい・いきいきサロンの充実

○富士見台の住民がだれもが集える居場所づくり（子育て世代、男性など）



子どもたちの成長を地域みんなで見守り、育てましょう

○小中学校との連携・協働を深める（チーム富士見台活動等の充実）

○子どもが遊べる、学べる、参加できる場づくり（ぼらんていあスクール、子ども食堂等の充実）

○登下校時の見守り活動の充実（ながら見守り）

吉永地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 7,209 人、世帯数 3,044 世帯、高齢化率 30.1%

生活課題

日常生活の困りごと：

○高齢者の買い物困難

○子どもが安全に遊べる場所の減少

つながりを維持する：

○若者たちの地域参加

○高齢者と若者との交流の場づくり

居場所：

○元気な高齢者の行く場所がない

○子どもの遊び場が少ない

ルール：

○ごみ捨て、交通ルール、公園の使用ルールなど意識向上が必要

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、吉永地区の目標

多世代がつながりあう顔の見えるまち 吉永地区

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

（支え合う） 身近なところで支え合う 顔の見える関係づくり

○子どもたちの見守り、近所の高齢者の見守り、日頃から顔の見える関係を作ります

（居場所） 子どもから高齢者まで、いきいきと集まれる居場所づくり

○地域住民が気軽に立ち寄れる居場所づくりを進めます

○多様な年代が交流できる機会を作ります

（若年層への発信） 若者の地域参加を促すアピールの仕方を考えよう

○地区福祉推進会で SNS を使った情報発信を始めます

○若年層（30代～50代）も参入しやすい事業を行います



（学びの場） 住民同士の思いやりの気持ちを高めていく

○環境問題、生活上のルール、子どもへの福祉教育等、まちづくり協議会のその他機関とも連携をしながら、地区福祉推進会主催の講演会やチラシ等で住民に訴えていきます

原田地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 6,755 人、世帯数 2,778 世帯、高齢化率 29.0%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 交通手段と店舗が少なく、買い物などが不便
- 高齢者が集える場所や子どもたちの遊び場が少ない
- ひとり暮らし高齢者世帯の増加

地域のつながり：

- 地域の活動行事への住民の参加意識が薄く、特に若い世帯の地域活動への参加が少ない
- 町内会、悠容クラブ（老人クラブ）等の地域コミュニティ役員の担い手不足
- 小学生の通学路などの安全確保
- 高齢者の活躍できる場がない

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための原田地区の目標

**高齢者と子どもたちへの見守りを充実させ、
高齢者の居場所づくり、だれもが交流できる場づくりに取り組み、
笑顔が行き交うまちにしましょう！**

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

高齢者の見守り、生きがいつくり

- ひとり暮らし高齢者、家に閉じこもりがちな高齢者への見守りや声かけを通して日常の困りごとを把握しよう
- 関係機関と連携して支援を必要としている高齢者を支えよう
- 高齢者の健康づくり、生きがいつくりのために、高齢者が活躍できる行事の開催や、公会堂や空き家を活用しての居場所づくりに取り組もう

だれもが気軽に集まれる機会の提供

- 世代を超えて高齢者、子ども、障害者がだれでも交流できる場所、行事などの機会を作ろう

地域で子どもたちを育てる

- 小学生の通学路で重点的に見守りや声かけを行おう
- 小中学校と連携して福祉の勉強会や体験学習の機会を作ろう
- 放課後児童クラブや子ども会と連携し、高齢者や障害者とのふれあい事業など子どもたちの福祉活動への参加を促進しよう



神戸地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 3,718 人、世帯数 1,468 世帯、高齢化率 30.1%

生活課題：

- 地区全体としては人口減少、高齢化率も上昇している、しかし神戸1丁目のみ区画整理による人口増加が見られる、転入世帯と今まで地区で生活してきた世帯間のコミュニケーションが不足していると考えられる

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、神戸地区の目標

どんなとき・どんなことでも地域全体で見守りができるまち神戸

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

高齢者等のお宅訪問により、いつでも互いに声かけられる関係を作る

- ふれあい訪問の回数を増加
（より声かけしやすい関係を作る、また回数を増やすことで、その時々
の困りごとをキャッチできるようにするため）
- ふれあい訪問時に、地区の子どもや地区防災関係者など各種団体の方々と一緒に訪問（世代間の交流・多方面からの支援）
- 訪問時の調査票作成（情報共有）
- フィードバック会議の開催（困りごとを共有し、解決策を協議）
- 勉強会の開催（訪問時の声かけ、記録の書き方など）



吉永北地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 2,818 人、世帯数 1,180 世帯、高齢化率 32.5%

生活課題：

- 少子高齢化で、地域活動の担い手や参加者が減っている
- 地域活動の新たな担い手がないために、負担感が増している
- 公的制度や福祉サービス、防災の情報が十分に伝わらない
- 気軽な集いの場が徒歩圏内がない
- コロナ禍で、他者とのかかわり方に迷いが生じている

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、吉永北地区の目標

みんなが少しずつ力を出し合って「つながり」のある地域づくり

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

普段の声かけが顔見知りになるきっかけ

顔見知りになることが、さりげない見守り、情報共有につながる

- 回覧板を回すとき、ごみ捨て等で顔を合わせたとき、近所の子どもたちを見かけたとき、自分からあいさつする

支える人を支えることで、アクティブシニア（元気な高齢者）世代が活躍しやすい地域づくり

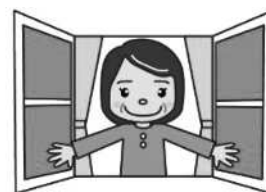
- 地域活動の担い手の負担感を軽減して、活動しやすくするため、役割分担を見直し、多くの人が活動に協力する体制を作る

徒歩圏内の既存の場を活用して、気軽に集える場をつくる

- ふれあい・いきいきサロンの活性化
- だれでも立ち寄れる交流の場を作る

地域活動に子どもたち（小・中学生）が参加する場面を増やす

- 地域の行事等で、小学校高学年、中学生にも役割を担ってもらう



青葉台地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 9,212 人、世帯数 3,898 世帯、高齢化率 22.8%

生活課題

- 若い世代の地区行事への参加が少なく世代間交流が薄い
- 近隣住民とのかかわりが薄い
- 地域団体の役員が高齢化し、なり手が不足している
- 町内会未加入世帯が増加しており、近所の住民を把握しきれていない
- 仲間作りができる場所が少ない

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、青葉台地区の目標

互近助(互いに・近所同士・助け合う)を高めよう！

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント(どれかひとつでも取組を始めよう！)

困りごとを助け合うしくみづくり

- すでに実施している生活支援サポーターの養成を通して、地域全体でお互いに助け合える取組を創り出す
- 隣近所のちょっとした助け合い活動をさらに推進していく

あらゆる世代の居場所づくり

- 既存の居場所及びその活動団体の情報を地域住民に広く周知する
- 子育て世代、子ども及び高齢者の孤立を防ぐために、憩いの場である居場所を地域に創設する

高齢者の生きがい・健康づくり

- すでに実施している世代間交流事業をより強化していく
- あらゆる世代が参画できる新たな取組を生み出していく



広見地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 12,465 人、世帯数 5,519 世帯、高齢化率 29.7%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 身近な相談窓口がない
- 高齢者等が気軽に集まる場所が少ない
- 住民同士のつながりが希薄

子どもたちや高齢者への支援：

- 子どもの減少
- 不登校の増加
- 認知症高齢者の激増
- 買い物や通院等に伴う移動が困難

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、広見地区の目標

心身ともに健康で 明るい笑顔が集うまち 広見地区

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

お年寄りや子どもが、気軽に出かけられるまちをつくりましょう

- お年寄りも子どもも安心して暮らせる環境をつくります
- 地域の居場所となる「ふれあい・いきいきサロン」を支えます

支援を必要とする方を支え合うためのしくみづくりを進めましょう

- 子どもや高齢者の見守り活動を、これからも引き続き進めます
- 支援を必要とする住民やその家族に寄り添い、互いに助け合います

安心して子育てができるまちを目指しましょう

- 小中学校との連携を深め、地域の子どもたちをみんなで育てます
- 子育て世代の親子をみんなで支えます

心身の健康についてみんなで考えましょう

- 健康面の課題を共有し、生活習慣病等の改善に努めます
- 元気な高齢者（アクティブシニア）が活動の担い手となります



地域での横の関係づくりを深めましょう

- 地区まちづくり協議会において、構成団体間の情報を共有します
- その中から「地域共生社会の実現」につながる活動を始めます

大淵地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 12,642 人、世帯数 5,289 世帯、高齢化率 32.9%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 買い物や移動が困難
- ひとり暮らし高齢者や要援護児童の増加
- 障害者の高齢化と地域移行
- 空き家及び耕作放棄地の増加

つながりをたやさない地域づくり：

- 困っている人が見えない
- 町内や地域団体の役員不足
- 地域の情報が伝わらない
- 隣近所のつきあいの希薄化

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、大淵地区の目標

新しい「つながり」を創出する地域づくり

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

隣近所の「つながり」を育てよう

- 各町内会に「福祉委員」を配置し、福祉活動の啓発につなげる
- 福祉推進会や民生委員・児童委員にも協力を仰ぎ、福祉情報を共有
- 町内会等の小地域単位で福祉について考える機会を設ける
- SNS等を活用し、新しいつながりを創出するとともに、福祉情報を広く地域に発信する

団体間の「つながり」を深めよう

- まちづくり協議会「福祉・健康部会」の構成団体の協働・連携
- 福祉委員を通じての町内会と地区福祉推進会との連携強化

子どもと高齢者が「つながる」環境をつくろう

- アクティブシニア（元気な高齢者）も地域を支える担い手に
- 元気な高齢者の仲間づくりを支援し、子どもたちの活動を支える
- 子どもやひとり暮らし高齢者等の見守り活動をさらに進める



天間地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 6,534 人、世帯数 2,854 世帯、高齢化率 30.6%

生活課題

- 高齢化や核家族化の進展等により、地域行事等への参加者や関心度が減少
- 働く環境の変化（高齢になっても働き続ける、共働き世帯の増加等）による地域活動の担い手不足
- 要介護者や認知症の増加
- 運転免許証返納者の増加等に伴う買い物支援や日常生活支援
- 地域住民の困りごと（潜在ニーズ）の把握

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、天間地区の目標

子どもからお年寄りまで、だれもが安心して暮らせるよう、
日常の「ちょっとした困りごと」を
天間のみんなで支え合う仕組みをつくろう、未来のために！

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

日常生活支援体制「天間支え合いセンター（仮称）」の設立

- 住民アンケートによる困りごとの把握
- ボランティアの募集・養成 など

認知症に優しい町にしよう

- 認知症予防講座の実施
- 認知症サポーター養成講座の実施



子どもたちのパワーを地域に活かそう

- 子どもが主役となる地域活動の実施
- 地域の中で安心して子育てができるよう子育て支援の充実

デジタル化の進展に伴う若い世代との情報格差をなくすよう高齢者への情報提供をしよう

- スマホ教室の開催
- 情報機器を活用したまちづくりなどの活動状況や健康づくりの情報提供

だれもが気軽に集える居場所の発掘（継続課題）

丘地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 13,840 人、世帯数 5,782 世帯、高齢化率 23.6%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 生活上のちょっとした困りごと（商店や食事場所がない、ごみ出しなど）
- 交通量が多く、交通手段が少ない（買い物や通院等が不便）
- 高齢者を取り巻く環境や困っている方を把握する

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、丘地区の目標

あいさつや声かけを通じて安心して住みやすい顔のわかる丘地区を創る

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

日常生活の困りごとを支え合える仕組みを作りましょう

- 丘地区の地域の実情を学び、福祉の理解を深める
- ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯などの生活上の困りごとを把握する
- 住民同士の支え合いの仕組みを考える（買い物、ごみ出しなど）
- 各種団体との連携を図る

各町内で交流やつながりを持てるような仕組みを作りましょう

- 子どもや高齢者をはじめ地域住民同士の声かけやあいさつ
- 子どもの登下校時の見守り活動の充実（ながら見守り）
- ふれあい・いきいきサロンなど集うことのできる居場所の充実

安全安心の視点を大切に、日頃からの地域のつながりを深めましょう

- 災害時の対応や交通、空き家対策についての学習会を実施
- 平時から隣近所の見守り、声かけを実施



鷹岡地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 12,597 人、世帯数 5,395 世帯、高齢化率 29.7%

生活課題

○公共施設・スーパー・ドラッグストアなど社会資源に恵まれているが、高齢化の進行により外出するための交通手段や、高齢者世帯・要支援者増加による日常生活課題に対する備えが地域住民で共有されていない。また、ご近所同士のつながりや助け合いが希薄化している。

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、鷹岡地区の目標

ふれあい訪問で見える・つながる・つなげる関係づくり

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

日常生活の困りごとを見過ごさない支え合いのしくみを作りましょう

- 地域の実情を把握し、助け合い対象者理解に努める
- ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯、要支援者などの生活上の困りごとがあれば、適切な関係者につないで、早期に課題解決できるしくみを考える

地域活動団体との連携

- まちづくり協議会福祉部会、地域包括支援センター、福祉事業所等との連携を深める
- 高齢者や障害者等の団体と連携を図り、災害時の見守りにつなげる

見える・つながる・つなげるための地域資源を知って見守りましょう

- 地域のふれあい・いきいきサロンの活動を応援、見守り
- 鷹岡地区地域包括支援センターの役割を理解する
- 子どもや高齢者をはじめ地域住民同士の声かけ（あいさつ）をしましょう



今泉地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在
人口 12,594 人、世帯数 5,566 世帯、高齢化率 27.6%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 困りごとの把握の難しさ
- 居場所（あつまる）場面の減少
- ひとり暮らし高齢者等の買い物支援やごみ出し

地域のつながりの再構築：

- 隣近所の関心希薄化
- 住民がつながることへ切実感不足
- 地域行事や団体への行事参加に消極的

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、今泉地区の目標

ちょっとした困りごとを助け合う、ともに支え合う今泉をつくろう！

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

ちょっとした困りごとの把握

- ・住民アンケートの実施、高齢者等にヒアリング

助け合うためのしくみづくり

- ちょっとした気にかけて合いをしよう
 - ・ひとり暮らし世帯への声かけや話し相手になる
 - ・隣近所でのあいさつや、回覧板を回すときに「もう一言」会話する
 - ・自分の買い物やごみ出しの際、高齢者に声をかけ少しだけお手伝いする
- 困りごとサポートの仕組みを作ろう
 - ・ごみ出しの手伝い（集積場や環境クリーンセンターへの運搬支援）
 - ・高齢者などへの買い物代行、買い物付き添い、移動販売車
- 身近な集いの場・居場所を作ろう
 - ・日曜日に開催するふれあい・いきいきサロンの立ち上げ
- 顔の見える関係を作り、多世代での交流を深めよう
 - ・若い世代の団体立ち上げと支援、盆踊りの復活、ハンドメイドやクラフトを通じた交流事業の開催

困りごとを助け合うための工夫

- 情報の発信を工夫しよう
 - ・若者には SNS を活用して呼びかけたい
 - ・回覧板を活用して関心を高める
- みんなの関心を引き出そう
 - ・事業は家族みんなで参加できる工夫を地域の率直な話題を出せるカフェがあるといいな
 - ・世帯が「孤立」する前に、つながりができる場面を作りたい



伝法地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 12,086 人、世帯数 5,293 世帯、高齢化率 26.9%

生活課題

高齢者・子どもへの支援：

- ひとり暮らし高齢者への支援
- アクティブシニア（活動的な高齢者）の活用が進まない
- 高齢者・子どもたちが集まれる場所・機会がない

人とのつながり：

- 近所づきあいの希薄化
- 世代間交流の場がない
- 各団体間の情報共有がうまくいっていない
- 福祉活動の担い手不足

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、伝法地区の目標

世代を超えた「人のつながり」がご近所から広がるまちづくり

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

アクティブシニアの発掘・活用

- すでに活躍されている方の活動を地域で紹介
- アクティブシニアの活動を健康づくりの一環として推進



高齢者・子どもへの支援を具体化

- 高齢者と子どもが一緒に楽しめる企画を実施、コミュニケーションを図る
- ひとり暮らし高齢者等への訪問活動を継続し、状況把握に努める
- 関係機関（専門職）を巻き込みながら情報共有を図り、支援につなげる

福祉の情報発信

- 各種関係機関・団体の役割を理解（共有）した上で、住民に対して福祉の情報発信を行う
- まずは福祉を知ってもらうための研修・講座等の開催（町内単位）

各種団体との協働・情報共有

- 各種団体との協働・連携を通じて縦から横のつながりへと強化
- お互いの強みと弱みを知り、役割を補い合う
- まちづくり協議会との協働企画を実施

吉原地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 12,190 人、世帯数 5,930 世帯、高齢化率 30,1%

生活課題

地域のつながりの再構築：

- ひとり暮らしや高齢者世帯が多いため、居場所づくりが必要
- 世代を超えた交流がない
- 民生委員・児童委員、子ども会、PTA 等、次の担い手がない

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、吉原地区の目標

声をかけ合い 安全安心に暮らせるまち 吉原

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

高齢者にとって居心地の良いまちにしましょう

- 吉原地区全 41 町内にふれあい・いきいきサロンを充実させる
- ふれあい・いきいきサロンのボランティアを増やし、育てる
- 高齢者の孤立を防ぐための訪問活動の推進

地域の住民が生きがいを感じられるまちにしましょう

- 笑顔で健康に暮らせるよう、スポーツレクリエーション等の実施

地域の住民同士の交流を大切にするまちにしましょう

- 世代を問わず、参加して楽しめるような交流会の企画
- イベントなどを通じて面識を深め、災害等の緊急時に備える
- 担い手不足解消のため、リーダー育成事業の実施



岩松地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 10,117 人、世帯数 4,267 世帯、高齢化率 25.1%

生活課題

- ひとり暮らし高齢者の見守り
- 地区活動、人とのつながりが減少している
- 地域の担い手が不足している
- 情報発信の不足、環境整備

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、岩松地区の目標

地域を見守ることができる担い手にだれもがなれる岩松地区

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

ひとり暮らし高齢者について

- ひとり暮らし高齢者世帯への声かけ、話し相手
- 地域での小さな困りごと（ごみ捨て、電球の取り換え）等を支援できる関係性の構築
- ひとり暮らし高齢者世帯への訪問、見守り体制の構築

地区活動、人とのつながりについて

- 地区の活動に関心を持っていただくため三世代交流事業の実施
- 多世代が交流できるサロンのような居場所づくり
- 地域でのあいさつ、声かけの徹底

地域の担い手不足の解消を目指して

- 他地区の福祉団体との交流、情報交換を行い、組織の活性化を図る
- それぞれの団体間での連携強化
- 地区の団体でリーダーとなれるような人材の育成

情報発信、環境整備について

- 各地区組織の活動、事業について回覧板等で周知
- 「かりがねづつみ雁 堤」等地域の特色を利用した活動を行い地区全体の活性化を目指す



富士駅北地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 12,711 人、世帯数 5,998 世帯、高齢化率 24.4%

生活課題

日常生活の困りごと：

○車がないと買い物等が不便 ○子どもの遊び場がほしい

○新型コロナ等による閉店 ○ひとり暮らしが増え、高齢化が進んでいる

人や地域のつながり：

○コミュニティを持っている人といない人の差が大きい

○新旧の住民同士のつながりが薄い ○若年層の活躍の場を増やしたい

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、富士駅北地区の目標

**支え合いの取組が継続的に展開され、
地区全体がつながる富士駅北地区**

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

年齢や障害の有無にかかわらず、みんなが支え合える仕組みを作りましょう

○日常生活のちょっとした手助けが相互にできる仕組みを作ります

○すでにスタートしている「ながら見守り」の活性化を進めます

○福祉事業所等と連携した取組を進めます

だれもが立ち寄りやすい居場所づくりを進めましょう

○地域住民みんなのための居場所づくりを進めます

○多様な年代が交流できる居場所を作ります

若い世代も一緒になって福祉のまちづくりをしましょう

○若年層と一緒に福祉のまちづくりについて考える場を作ります

○若者が主体的に活躍できる機会と場所を作ります

○世代間交流ができる取組を進めます



地域での横のつながりを深めましょう

○地区の住民全体がつながるために、情報共有の機能を強化します

持続可能な取組を継続していきましょう

○SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組を進めます

岩松北地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 10,035 人、世帯数 4,113 世帯、高齢化率 23.8%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 地域内に商店等の買い物ができる場所が少ない
- 交通手段が少ない（買い物や通院等が不便）
- 高齢者や障害者、子どもの見守りが必要
- 新興住宅地やアパートが増え、近隣のつきあいが薄くなっている

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、岩松北地区の目標

あいさつや声かけ、見守りを広げ、安心してすごせる岩松北地区に!!

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう!）

日常生活の困りごとを支え合う仕組みを作りましょう

- 各区の実情を学び、福祉の理解を深める事業を行う
- ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯などの生活上の困りごとを把握し、支援する仕組みを作る
- 住民同士の支援の仕組みを考える（買い物、移動手段、ごみ出しなど）各種団体と連携を図り、事業にあった支援をつなげていく

子どもや障害者、高齢者をはじめ地域を取り巻く環境を理解し、見守りを進めましょう

- 子どもや高齢者をはじめ、地域住民同士の声かけ（あいさつ）や見守り
- 子どもの登下校時の見守り活動（ながら見守り）の促進
- 高齢者が気軽に集える居場所づくり
- 地域の相談ができる窓口の周知



常日頃からの地域のつながりを大切にしましょう

- 福祉団体と防災活動団体との事業等での協力
- 各区に福祉委員を設置し、福祉の啓発を行う
- 地域の交流の場（お祭りやイベントなど）を通じて、顔の見えるつながりを大切に、地域に広めていく

富士北地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 8,799 人、世帯数 3,676 世帯、高齢化率 23.1%

生活課題

日常生活の困りごと：

○買い物がしやすい地区ではなく、免許を返納した高齢者は買い物難民に

地域のつながりの再構築：

○高齢者世帯が多い地区だが交流はあまりなく、高齢者が孤立しやすい環境

○新規の世代は増加しているが交流は少なく、防災に不安がある

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、地区の目標

だれにとっても住んでいてよかったと思える、暮らしやすいまち富士北

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

高齢者にも優しい暮らしやすいまちにしましょう

○高齢者宅へ配食や配達を行うボランティアの実施

○通院・買い物の送迎ボランティアの実施

○高齢者の孤立を防ぎ、生きがいを見つけられるようなふれあい・いきいきサロンなどの居場所の充実

世代を問わず交流できるようなまちにしましょう

○世代を問わず楽しめるようなグラウンドゴルフなどのイベントの企画により、地域の住民同士の親睦を深める

○さりげない交流により、地域の住民同士の面識を深め、災害時に備える

見守り活動を推進し、住民が安全に暮らせるまちにしましょう

○ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への見守り活動の実施

○児童の安全確保のための定期的な見守り活動の実施

○住民同士の声かけ運動の推進



富士南地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 17,445 人、世帯数 7,413 世帯、高齢化率 24.2%

生活課題

人とのつながり：

- 人間関係の希薄化
- 行事への参加者が少ない
- ひとり暮らし高齢者世帯の増加
- ひとり親世帯の子どもへの支援

各団体の担い手不足：

- 役員・ボランティア不足
- 役員を決める方法が難しい
- 子どもは多いが、見守り隊の人数が少ない

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、富士南地区の目標

ささえあいを通じて健康で連帯感のある福祉のまちをつくります

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

地域住民が気軽に交流できる場所や機会の提供

- 各区でのふれあい・いきいきサロン開催の推進
- ふれあい・いきいきサロンや交流等を利用した見守り活動の実施
- 元気な高齢者（アクティブシニア）の活用



世代間交流を図る活動を実施

- 子どもや若年層が福祉活動を理解するための啓発や世代間交流の実施
- 特定の年代が集まるのではなく、世代を超えた人が集える機会の創造
- 各種関係機関・団体を巻き込み、協働し合う（縦から横のつながりへ）

福祉の情報発信

- 福祉活動を身近なことに感じてもらうため、福祉の情報を発信していく
- 福祉の情報を共有することによって、必要な支援につなげる

住み慣れた地域で安心して暮らしていくための取組

- 身近にいる高齢者への声かけ
- 情報収集（どこにどのような困りごとがあるのか？）し、現状を把握する
- 困っている人がいたら支援につながるようなくみづくり

富士駅南地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 11,964 人、世帯数 5,538 世帯、高齢化率 24.7%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 高齢者の買い物困難
- 相談できる相手が近隣にいない
- 気軽に立ち寄れるような居場所がない
- 子どもが安全に遊べる場所の減少

つながりを維持する：

- ひとり暮らし高齢者の孤立
- 世代間交流の促進
- 子どもたちの地域参加
- 住民全体の防災意識の向上

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、富士駅南地区の目標

地区住民がともにつながり、みんなで支え合うまち富士駅南地区

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

顔の見える関係づくりを進めましょう

- 各区公会堂単位の住民福祉ネットワーク活動を進めます
- 近隣で声をかけ合い、日頃から顔の見える関係を作ります

地域住民の孤立化を防ぎましょう

- ご近所同士のさりげない見守り活動を進めます
- 地域住民が気軽に立ち寄れる居場所づくりを進めます



住民同士の支え合いのしくみづくりを進めましょう

- ごみ出し等の軽度な生活支援活動を住民同士の支え合い活動として実施します
- 子育て世代の持つ不安や困りごとを地域全体の課題として解決していきます

様々な取組は地区全体で進めましょう

- 日常的に住民同士がみんなでつながり合い災害に強いまちにします
- 地域の関係機関や事業所と連携した活動を進めます
- 世代間交流が促進する取組を進めます
- ICT（情報通信技術）を取り入れ住民同士の新しい情報の共有化を進めます

田子浦地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 14,606 人、世帯数 6,255 世帯、高齢化率 25.5%

生活課題

- 高齢者世帯が増加している、気軽に集まれる場所が少ない
- 世代間交流が薄い、必要な支援や実態把握が難しい
- 顔見知りになる機会の減少、役員の負担が多く、なり手が少ない

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、田子浦地区の目標

困っている人をみんなで支え合い、助け合うまち

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

地域で暮らす高齢者と交流し、支え合う地域づくり

- 見守り活動などを通じた、身近で生活している高齢者の把握
- 日頃から声をかけ合い、顔の見える関係性を作る

多世代が集う交流の場所づくり

- 世代間の垣根を超えた交流事業の実施
- 地域住民が生きがいを持って活躍できる新たな場や機会の創出

高齢者を日常的に見守る体制づくり

- 「あんしん見守り連絡表」の定着を図る
- 高齢者が安心して日常生活を送ることができる体制の構築

住民への福祉情報の発信

- 福祉活動周知のため、地域全体の福祉に関連した情報を掲載している、福祉情報紙『潮風』を幅広く発信
- 地域の福祉活動や福祉機関との連携を「見える化」し魅力を発信、新たな担い手を発掘していく



富士川地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 8,348 人、世帯数 3,505 世帯、高齢化率 36.2%

生活課題

日常生活の困りごと：

- 生活上のちょっとした困りごと（買い物、ごみ捨てなど）
- 交通手段が少ない（買い物や通院等が不便）
- 高齢化率が市内1位
- 高齢者や障害者、子どもの見守りが必要
- 高齢者や困っている方の把握

防災：

- 災害時の対応
- 要援護者の避難
- 水害への不安

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、富士川地区の目標

支え合いとつながりを大切に 安心して暮らせるまち 富士川

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

日常生活の困りごとをお手伝いできる支え合いのしくみを作りましょう

- 富士川地区の地域の実情を学び、福祉の理解を深める
- ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯などの生活上の困りごとを把握する
- 住民同士の支え合いのしくみを考える（買い物、ごみ出しなど）
- まちづくり協議会福祉部会や福祉事業所との連携を強化する

子どもや障害者、高齢者をはじめ地域のつながりをたやさない見守りを進めましょう

- 子どもや高齢者をはじめ地域住民同士の声かけ（あいさつ）や見守り
- 子どもの登下校時の見守り活動の充実（ながら見守り）
- ふれあい・いきいきサロンの充実
- 子どもが遊べる、学べる、参加できる場づくり



防災の視点を大切に、日頃からの地域のつながりを深めましょう

- 福祉と防災活動団体との協力
- 災害時の対応について学習会を実施
- 平時から隣近所の見守り、声かけを実施

松野地区

1 わたしたちのまちの現状と生活課題

地区のデータ：※令和3年4月1日現在

人口 6,809 人、世帯数 2,844 世帯、高齢化率 34.5%

生活課題

- ひとり暮らし、認知症高齢者への対応（見守りなど）
- ふれあい・いきいきサロン及びフレイル予防活動について（交流、介護予防など）
- 情報共有サービスの周知（防災、福祉等の情報発信）など

2 だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、松野地区の目標

子どもから高齢者まで地域が一体となり、だれもが住み良い松野地区

3 目標達成に向けた新たな活動のヒント（どれかひとつでも取組を始めよう！）

高齢者への対応

- 地域への声かけやあいさつを行い、心配ごとを相談できるような関係性を構築
- 認知症への理解を深めるための講座の推進
- 高齢者世帯に対する定期的な健診、受診の促し
- 交通手段がない人に対しての買い物支援

ふれあい・いきいきサロン及びフレイル予防活動について

- 地域の特性を活かしたサロン活動の実施
- 多世代がかかわれるような新たな地域の居場所づくり
- 介護予防につながる健康教室等の推進

情報共有について

- SNS を活用した情報発信
- 回覧板等を活用し、サービスの周知を徹底
- 統一した防災情報等マニュアルの地域全体への配布

